

川の環境保全のために、私たち自身ができることも多いはず。美しい川を次代へ残すという意識が大切。(安藤九平治)

町長◆国が河川管理を地方に移行する背景には、以前のよ
うな河川とかかわってきた人々
の姿を取り戻すことで、河川
を大切にすることを願ってほ
しいという願い、そして快適な環
境づくり、住みよいまちづくり
につなげてほしいという思いが
あるからなのだと思います。

思い出に刻まれた、川の恵みを伝えたい。

町長◆柴田町は阿武隈川、白石川、五間堀の三つの河川が町を流れる、まさに川の町です。川がもたらす自然の恵みで、町民の皆さんの生活に潤いを与えていきたい。その思いを胸に、皆さんのご協力をいただきながら柴田の河川に向き合っているところなんです。時代の移り変わりとともに人々の生活が刻々と変化を遂げ、利便性が高まりましたが、その裏側にある水質汚染問題は当町の河川にも、甚大な影響を及ぼしています。**斎藤(幸)**◆町長がおっしゃる



最初の四日市場排水機場の建設工事(昭和25年頃)



四日市場坂本地区にあった八枚水門

ように、私たち住民も水質問題については深刻に受け止めています。しかし、水質汚染要因の大半を占めるのは、生活排水なので、町民の皆さん一人ひとりが生活を見直すことで、改善されていくのではないかと思うのです。私が幼い頃、川を泳ぐ魚は大切な食料でした。満足な食料がな

からないようになると魚は流水の下に身を隠すんです。そこを狙って地引網で引き上げると、大量の魚が捕れるんです。今となつては魚を釣ったとしても、決して美味しいと食べられる時代ではなくなつてしまいました。孫と一緒に釣りをしながら、あの頃を懐かしく思い出せたらと思います。川のもつ真の豊かさを、もう一度取り戻していきたいですね。

川づくりからはじまる柴田町活性化計画。

町長◆最近、水質が改善されてきた理由のひとつには、柴田町の河川を愛するボランティアの方々の尽力によるものが大きいと思います。桜祭日には自衛隊の皆さんも参加し、白石川の清掃に大勢の人が集まりました。近年では、白石川は桜の名所としてバスツアーで観光客が訪れるほど、広く定着し始めています。そこで、自身の考えなのですが、蓮華や水仙などを植えて、季節ごとにさまざまな表情を見せることができれば、地域の方々だけでなく、沿線を通る電車からも柴田の美しさを感じてもらえるのではないかと思います。



暴れ川として有名な阿武隈川との壮絶な生活を振り返る。

斎藤 幸一さん
昭和15年3月18日生。
下名生在住。

带状に白幡橋周辺の河川を黒く埋め尽くすほどでした。ウナギなど手づかみで捕っていたものでした。町民の安全を守りながらも、行き過ぎた改修工事になるのではなく、町民の皆さんが癒される憩いの場としての環境整備が行われることを望みます。**斎藤(幸)**◆私自身は、温暖化という地球規模での環境汚染も心配しています。私が若い頃は、冬になるとザクザクと音を立てながら河川を流水が流れていたものでした。水にぶつ



柴田人、 Table Talk
座談会 川との暮らしを語る

美しい川には自然と人々が集い、新たな地域社会が生まれる。柴田ならではの川づくり、まちづくりに期待。(町長)

い時代でしたから、釣りあげたばかりの魚は私たちにとってご馳走であり、重要なタンパク源でした。その場で焼いて食べる魚の美味しさは、今でも私の舌が覚えています。**安藤**◆水質汚染は一期よりも、確実に改善の兆しが現れていると思います。それというのも、自宅近くの用水路には毎年カ

ぐらせているところです。**斎藤(勝)**◆皆さんがおっしゃるように、私たちの生活における川の存在自体が変化してきました。事実、子どもたちが川で自由に遊ぶ光景は以前よりも少なくなりました。私たちが生活の場として生きてきた川は、危険な場所として認識されるようになってしまいました。新たな河川と人のかかり方をもつて、現代の子どもたちに川の大切さを体感してほしいですね。

日下◆皆さんのお話しをうけ、柴田の人間の心には、自然と共存してきた知恵、そしてなによりも川への思いがあるということを深く感じられました。これからの河川、どれだけ時代が流れようと川への思いは絶えることなく流れ続けていつてほしいと思います。

町長◆いつの頃からか危険であることがかりがとりざたされてきた川でしたが、川の学校なども各河川で始まっています。安全を最優先としながらも、子どもたちが存在する河川の姿を取り戻しつつあるように思います。子どもたちがふるさとを思い出すとき、柴田の川の風景が自然に思い出され

ワセミのつがい飛んでくるんです。ただ、私が懸念しているのは、環境汚染だけでなく、行き過ぎた河川改修についてです。コンクリートで固められてしまった敷地には、カワセミはおろかほかの生物も生息できなくなりません。しかし最近では、平坦なコンクリート装にするのではなく、岩石に見立てて凹凸をつけたり、藻を生やしてみたりと、環境を意識した工事が見られるようになりました。自然の姿で残すということは、草刈りなどの手間がかかったとしても、私たちが努力しなければならぬことのひとつではないでしょうか。

斎藤(幸)◆水質改善の意見には私も同感ですね。ウナギと鮎、そして鮭が生息する川は水質が良好だと聞きますが、去年は村田町まで何匹もの鮭が遡上し、皆で手を取り合せて喜び合いました。私が幼い頃は初夏を迎えると、鮎の稚魚が何メートルにもわたって列をなし、



しばたの郷土館館長。町に息づく歴史を愛し、これからの柴田の町を見守り続ける。

日下 龍生
昭和21年1月23日生。
四日市場在住。

てほしいというのが私の願いです。先ほども申し上げましたが、柴田は三つの川を有し、河川を主体としたまちづくりができる素晴らしい町です。あと二歩、町民の皆さんが環境問題や景観づくりへの思いをもつていただければ、地域活性化にもつながっていくはず。川が美しくければ、自然と人々が集い、そこに新たな地域社会が生まれ、根付いていくでしょう。これからの柴田町ならではの河川社会を皆さんとともに築いていきたいと思っています。